

## 山と電気の風景論 ②③

北岳, 間ノ岳, 塩見岳～日本百名山第2, 3, 9位の標高3000m級, 30km南アルプス縦走～

セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

### 日本アルプス最長の「尾根縦走路」

今回扱う北岳, 間ノ岳, 塩見岳は前日泊含めると3泊4日のお盆休みの縦走であった。8月中旬であるため, 通常は, 天気にも恵まれるはずであったが, 生憎, 低気圧前線が全国を覆い, アルプス山岳地帯は強風と雨が予想されていた。同行予定の岳友は山小屋をキャンセルし延期することになった。しかし, 楽観的な筆者は, 8月だから, 前線も移動しなるとかなるさと単独登山することになった。

結果は, 事故は起きなかったものの, 雨とガスが山岳地帯や天空を覆い, 絶景どころか, 時にはホワイトアウト(周りがガスでみえにくい現象)の時もあり, カッパを着て歩くのもつらい登山であった。それでも, 絶好の夏休みの時期であり, 登山者は多かった。天候不順のコースでは, すれちがう登山者や山小屋で危険な場所などの情報が得られる。登山道での山仲間や山小屋での情報交換は貴重であった。

これ以降, 天候が悪化する可能性のあるときには岳友が言うように登山は避けることとした。3000m級の山頂では酸素が地上に比べ7割に減り, 温度差が20度もあり, しかも強風, 雨にさらされて, 今回は「体力消耗の登山サバイバル」の勉強をした。そんな反省たっぷりのヤマレコである。

### 三座の特徴と登った印象

三座は, 山梨県, 長野県, 静岡県の三県にまたがり, 県境をなし奥深い。

南アルプスの山は好天時こそ爽快だが, 悪天時に



日本一高い峠「三伏峠」で一服

は斜面が崩れやすく, 砂岩, 砂利が川に流れる。間ノ岳の大井川上流部では溪谷を河川が曲がって流れる穿入蛇行を繰り返すほどだ。登山時も夜叉神～広河原は土砂崩れで通行止めとなり, 塩見, 間ノ岳を登った15日は雨模様で視界が10mで風力が強かった。それでも時々晴れ間も出て, 尾根からの山々の展望や高山植物の群生も楽しめたのが救いであった。

#### ①塩見岳<標高3047m>(平成26年8月14日～15日)

名前の由来は山麓の鹿塩で塩が取れたという単純な説と, 見晴らしが良く駿河湾の潮が遠望できるという説もある。見た目は黒鉄兜とか入道雲に似ている。

登山日初日は, 早朝から伊那大島から登山バスに揺られ, 奥山を経て鳥倉登山口に到着。藪道や薄暗い樹林帯の湿っぽい土道を進む。岩木の根っこ道や梯子もあり滑りやすいので用心する。1時間もすると雨降りとなり, 三伏小屋で熱いお茶を飲み, カッパを着, ザックをカバーする。日本一高い峠である三伏峠を経て, 緩やかなアップダウンが続く土道を進み, 古い塩見小屋にずぶぬれで到着。満員で窮屈(定員30名に50名ほど), 乾燥機もなくトイレも雨天外出で厳しい環境だったが, ぜいたくは言えない。夕食で元気をもらった。

翌日の早朝は運よく晴れ間が見えた。ご来光も拝



塩見岳へとハイマツと岩場をぬって

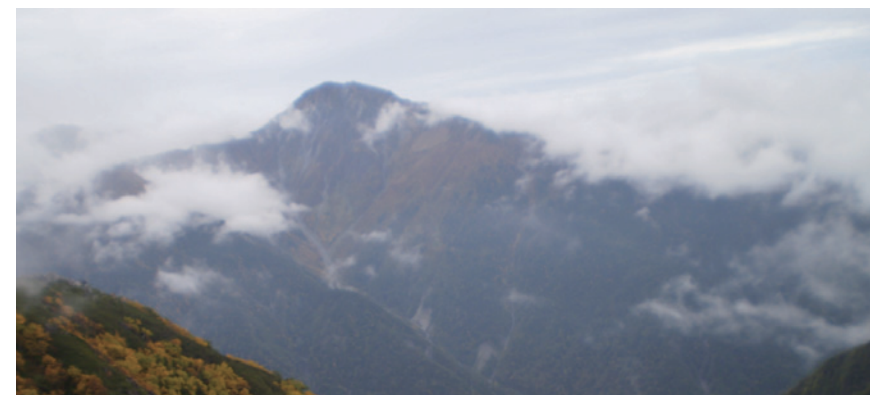


尾根縦走路。瞬間的に晴れ間もあり



間ノ岳は強風ホワイトアウト

し写真におさめた。南側に目をやると大井川源流の中俣を見下ろせた。すぐにハイマツの道を過ぎ登り始めたが, 急勾配で大岩石がゴロゴロし歩きにくい。二つのこぶが頂上であり, 西峰には三角点があった。その後, 頂上からの急坂を慎重に下り, 蝙蝠岳分岐を経て縦走路を辿った。



北岳眺望<鳳凰三山薬師岳から>(平成27年夏)

#### ②間ノ岳<標高3190m>(平成26年8月15日)

山岳の図体の大きさでは日本アルプス一番と言われるが意外と知られていない。名前は赤石連峰から, 白峰山脈の北岳に行く間の山だからという。柔和な山容をしているが, 霧に包まれると方向がわかりにくく, 手強い山に変身する。よって熊の平小屋で休憩したり, 高山植物が咲き誇る三国平でゆったりした。水源の大井川, 早川, 三峰(みぶ)川の源流としても有名だけに水場は多い。一万年前の氷河により作られたカールがガスの中, かすかに見えた。足元に延びる稜線の尾根伝いの山で標高3000mの稜線が日本一の稜線だが残念ながら眺望は瞬間的な晴れ間を除き, できなかった。午後の三峰岳～間ノ岳では風雨が冷たくホワイトアウトとなり, 岩石登りは不安だったが, 登山者らと岩陰で休憩したり, 道を間違えないように留意した。間ノ岳登頂後に北岳山荘を探すのに注意した。



何とか北岳も登頂し, 一息

#### ③北岳<標高3192m>(平成26年8月16日)

「日本で第二の山でありながら, 謙虚にして気品がある。慎ましく, しかし凛とした気概を持ち清秀な高士である」(深田久弥氏)。

野呂川が北岳を大きく巻きピラミッドのようか孤高な雰囲気があるが, どの沢から登ろうとしても正規コース以外は峻険で危険だ。

当日は、北岳山荘で5時に朝食をいただき5時半に小雨のなか出発。まずは北岳山頂へと鎖場、岩場を乗り越える。頂上は登山者が十人ほどいたが強風のため声がかき消された。15分ほど頂上にいたが、寒くて7時には下った。

ごつい急坂の岩肌を抜け、平な尾根道に立ち、肩の小屋を過ぎ、草すべりの道や森林内をひたすら歩いた。ようやく白根御池小屋に到着した。ここでは、1時間ほど、じっくりと身体を休めた。熱いカレーとお茶を飲み、雨の止むのを待った。そこからは、天気も回復し野呂川の広河原つり橋を通るころには、すっかり晴れ、温かくなった。昼前に広河原に着き、14時に登山バスで甲府に向け、土砂崩れ道を迂回して、17時には甲府駅に着いた。一日で、気温8度～28度を体感した。

#### 【行程】

8月13日

(前泊)。松本市内の実家に寄り墓参後に駒ヶ根のビジネスホテルに泊。

8月14日

6:45 伊那大島駅前発(登山バス)。

8:35 鳥倉登山口着。(16名、男女半々)。

<以下、歩行 5時間45分(休憩含む)>

8:45 発。

10:10 水場。

11:05～11:20 三伏小屋(三伏峠)。

12:01 三伏山。

12:31 本谷山。

14:20 塩見小屋着。

16:30 食事。お盆時期で超満員。(現在、小屋はリニューアル済み)

8月15日

午前には晴れ間も見え小雨程度であったが午後にな

るとガスって道がわからない場面もあり、尾根で道を間違え引き返すこともあり登山時間は長くなった。

4:30 朝食。

<以下、歩行 10時間40分(休憩含む)>

5:10 小屋発。

6:20～30 塩見岳(西峰、東峰)。

7:00 蝙蝠岳分岐。

10:30 安倍荒倉岳下。

11:00～11:15 熊の平小屋。

13:15 農鳥岳分岐。

14:00 三峰岳。二名の社会人登山者と風雨に火山石の陰に避難。尾根の道を間違え引き返す。

14:30 間ノ岳山頂。

15:00 中白根。

15:50 北岳山荘着。150名満員。小屋は水も豊富で乾燥室も昭和大学診療所もあり助かる。

8月16日

<以下、歩行 山荘～広河原 6時間10分(休憩含む)>

5:30 北岳山荘発。

5:55 八本歯分岐(八本歯コルは前月に崩落し不通)。

6:41～7:00 北岳着。

7:23 肩の小屋。

8:50～9:40 御池小屋にてカレー、珈琲。

11:40 広河原インフォメーションセンター着。南アルプス展示館で登山ルートの水源確認。

14:00 広河原発～甲府。

17:16 特急かいじで東京へ。

#### 野呂川・早川水系、大井川水系の水力発電パワー

塩見岳、間ノ岳、北岳からの積雪や豪雨は水力発電の貴重な水源だ。1964年の東京五輪の前から首都圏に電力供給してきた。

三座を囲む野呂川・早川水系、大井川水系は一般水力(流込み)発電の大水源である。例えば東京電力(以下東電)・早川発電所の第一は落差228mで最大51,200kW、第三は27,100kWである。山梨県は1963年から最大出力20,000kWの野呂川発電所を稼働し続けている。大井川水系では東電が田代川第一、第二発電所を運転しており出力は各々17,400kW、22,700kWに及ぶ。計二十ほどの水源ダムがある。厳しい冬季も電力マン・ウーマンは取水口などの点検・巡回業務等を果たしていることだろう。本当にお疲れ様です!!



北岳を囲む水力発電の宝庫、野呂川・早川水系上流